ケンちゃんの
おすすめ映画情報
→ A面からのつづき。

サイバーゾーンクライシス

制作 鈴虫映画舎　前野健一監督作品

脚本、人形制作、アニメート 前野健一、撮影 大宮司勇
メカニックデザイン、造型 前野健一 & 大宮司勇
声の出演 相田東子、高橋優子

人形アニメーション作品／16mm映画／カラー／25分(予定)

陶酔と死闘の電脳空間へ！ 妖粧の人形達が誘う!!

この作品を、「Neuromancer」の翻訳者、故、黒丸尚さんと、「KATAN DOLL」の人形作家、故、天野可淡さんに捧げる！かどうかは、映画が完成してから、捧げられる作品になったかどうか考えてから決める、っつーことで。
やっと人形が出来てきたんで、もうすぐクランク・イン。

表紙の人

ある日、この人は僕に、自殺するかもしれない、という事を言った。僕は困った。
丁度その日は、「なげやりブラザーズシアター」の公演「あなざらんだー・3」が行われる日であり、僕は前売り券も買ってあって、見に行く予定だった。そうだ、こんな時にこそ、こういう心境の人こそ、なげやりブラザーズを観るといいんじゃないだろうか!? 僕はこの人を誘い、シネサテダの斎藤さんと3人並んでこの劇を観た。
果たして会場は爆笑の渦！元気に、かつ下品に繰り広げられるギャグの連打！
…見終わって別れて、その後2～3日は、僕は新聞の地方版の記事を恐る恐る読む日を送った。「身元不明の死体」という記事にギクリとし、「中年男性」と書いてあってホッとする… という事もあった後、僕はこの人の元気な姿をまた見る事ができたのだった。
聞いた訳ではないけど、思いとどまった要因の何割かは、なげやりブラザーズのおかげだと僕は思っている。
ありがとう、なげやりブラザーズシアター。
…それで、僕はこの人の名前を、まだ知らない。(前野健一)

次号予告！

もし君が宇宙怪獣のかけらを持っていたら、危険ですから すぐ電撃研究所に届け出て下さい。

次回は、紅い電撃ゾーン初の全面特集をやる。
それは、**ウルトラマン特集だ!!**
まず、志子田仁人の「ウルトラマンタロウ2」。電撃ゾーン第1号から連載の「タロウ2」が、次回で遂に最終回!!
ウルトラマンタロウの活躍はもちろんの事、「全部出す！」と語る志子田氏のペンにより、レオ、アストラ、80、グレート、メロス、そしてファイタスの戦いが活写される事になろう！
しかもファイタスはヨロイ非装着、生身の状態での登場となる事を予告しておこう！
エイブラハムズ・パンロッホは「還ってきたウルトラマン」、「やって来なかったウルトラマン」2本の物語の執筆を宣言！地球の人類が異星から来た巨人の力によって、外的脅威から守られるという、ウルトラマンシリーズ共通の構図を鋭くつきつつ、エンターテイメント性を決して失わないストーリーに期待されたい！
そして、故・大伴昌司に捧げるべく執筆される、"怪獣内部図解"の決定版！「怪獣解体新書」は、前野良沢直系の子孫・前野健一がお送りする！
(上記の叙述には一部、嘘があります。) 二十数年前、ゴーストロンは、黄金血液を全身に送る黄金心臓を持っていた。エレキングは、数億ボルトの電気をためておくバッテリー腸を持っていた。ベムラーは、火球のもとが入っている、液体火炎ぶくろを胸腔内に持っていた。では現在 — オゾン層が破壊され、原子炉では炉芯が融解したり、冷却水が漏れたりしているこの時代に誕生した怪獣達は、かの超器官をどのように進化させているのだろうか！超変身怪獣・キング・マイラ、双脳怪獣ブローズ、毒ガス幻影怪獣バランガスの解剖が今電撃研究所で開始される！この実験室に立ち合うのは君だっ!!
—と、このように第9号は重箱をたたいて渡るような企画で押しまくるぞ。

ファイタス
(初稿)
志子田仁人の手による

それでは、第9号でまたお会いして、あなたが僕達の思考遊戯にお付き合い下されば幸いと思います。(かなり不安) さようなら。
←まあ別にいいけど。

文責・関沢新一、本多猪四郎両氏の冥福を心から祈る 前野健一。

※予告された内容は、かわる事があります。

紅い電撃ゾーンは、エルパーク情報ステーション(141ビル5F)、八重州書房(VIVRE地下)、そしてTAGに置かせてもらって無料配布しています。TAGにはバックナンバーも。

第8号・1993年6月10日(第7号と同時発行)
電撃研究所、仙台市